

NEC Express5800シリーズ Express5800/120Gb

3

ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて (222ページ)

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められているソフトウェアについて紹介します。

EXPRESSBUILDER (223ページ)

セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。

ExpressPicnic (231ページ)

シームレスセットアップ用パラメータディスク (セットアップパラメータFD) を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。

本体用バンドルソフトウェア (242ページ)

本装置にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

管理PC用バンドルソフトウェア (256ページ)

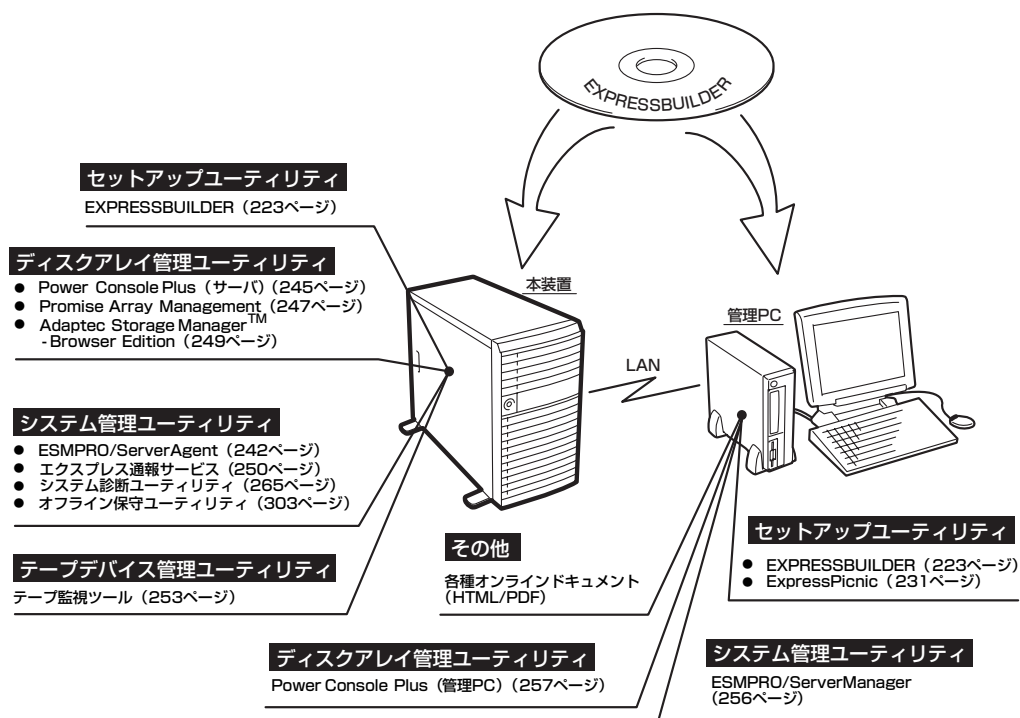
本体を監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のEXPRESSBUILDER® CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



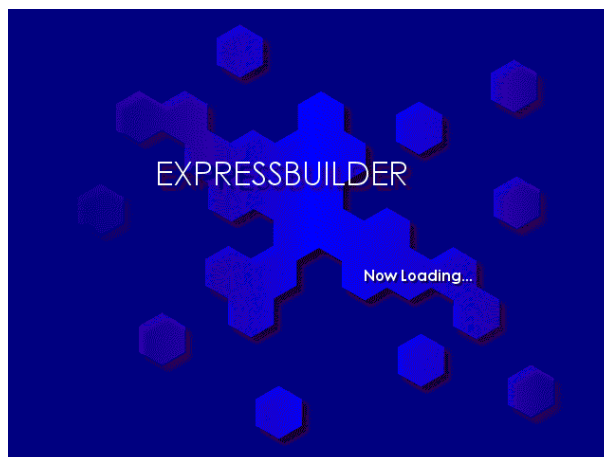
「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。紛失しないように大切に保存しておいてください。



- UPSなどをビルド・トゥ・オーダーで合わせて購入した場合は、電源管理をするユーティリティも利用してください。詳しくは、UPSに添付の説明書を参照してセットアップをしてください（これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません）。
- ディスクアレイの設定をするRAIDユーティリティはボード上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、ボードに添付の説明書を参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。



起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- **EXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する**

EXPRESSBUILDERを本体のCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でシステムを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。



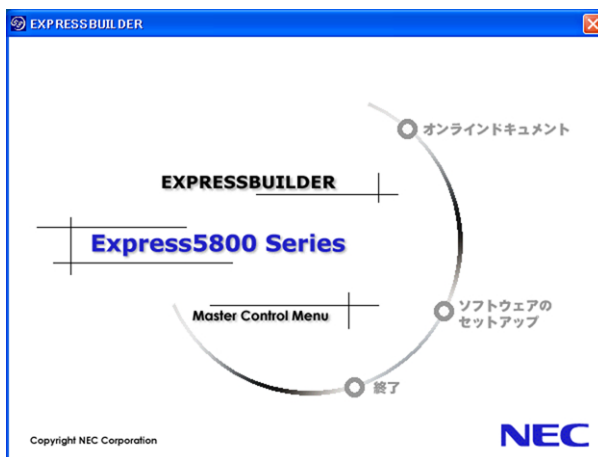
- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が起動した後、CD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアおよびOS（オペレーティングシステム）のセットアップとインストールをするときに使用します。



BIOS の設定を間違えると、CD-ROM から起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

- － 「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定。

起動方法

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。

The screenshot shows the EXPRESSBUILDER main menu with the following options and callouts:

- シームレスセットアップ**: RAIDの構成からOSのインストールまでを、切れ目なく（シームレスに）セットアップを行います。OSの再インストールを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。
- ツール**: EXPRESSBUILDERに収められている「システム診断」などの各種ユーティリティを個別に起動します。
- ヘルプ**: EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。
- 終了**: EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

Additional text on the screen: 「シームレスセットアップ」は、RAIDの設定から、OS、各種ユーティリティのインストールまでを、切れ目なく（シームレスで）セットアップできる方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。複雑なセットアップをこの段階で代わって行います。

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows Server 2003/Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

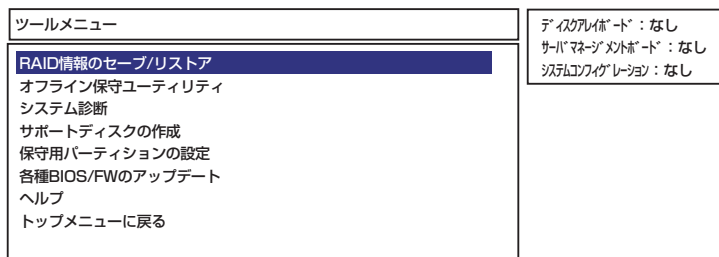


セットアップを開始したら、完了するまで本体の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



- **RAID情報のセーブ/リストア**

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報はフロッピーディスクに保存(セーブ)したり、フロッピーディスクから復元(リストア)したりすることができます。LSI-Logicディスクアレイコントローラを2枚搭載している場合は、起動順位の高い方のディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報について操作することができます。起動順位と搭載できるPCIスロットについては、「PCIボード* (142ページ)」または「RAIDコントローラボード* (146ページ)」を参照してください。セーブ/リストアができないもう一方のディスクアレイコントローラの情報についてはPower Console Plusを使用します。詳しくはEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメントを参照してください。

- **オフライン保守ユーティリティ**

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は303ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。265ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- Windows Server 2003 x64 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 をインストールするときやWindows 2000 の修復をするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

- ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、9ページを参照してください。



「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、リセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

- 保守用パーティションの作成

保守用として内蔵ハードディスク上に領域を確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ（システム診断/オフライン保守ユーティリティ）を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に使用することができます。

－ 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ（システム診断/オフライン保守ユーティリティ）を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

－ FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● 各種BIOS/FWのアップデート

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のWEBサイトに詳しい説明があります。

『8番街』：<http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。

「README.TXT」はWindows 2000のメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● ヘルプ

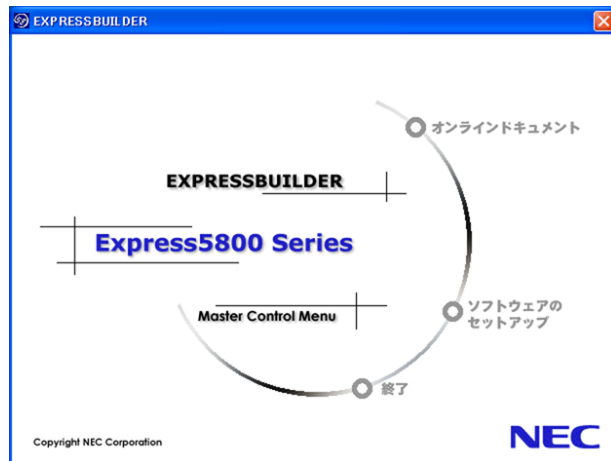
EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

CD-ROMのドライブレター :¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに [ソフトウェアのセットアップ] の [Acrobat Reader] を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。



Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions用の「セットアップパラメータFD」は作成できません。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

セットアップパラメータFDの作成

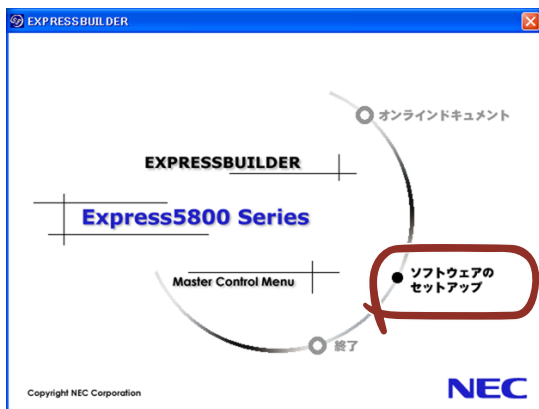
OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



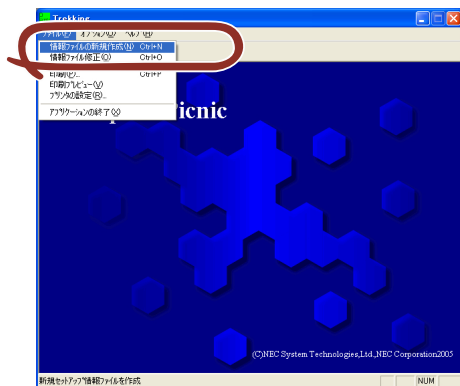
ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ] を左クリックする。

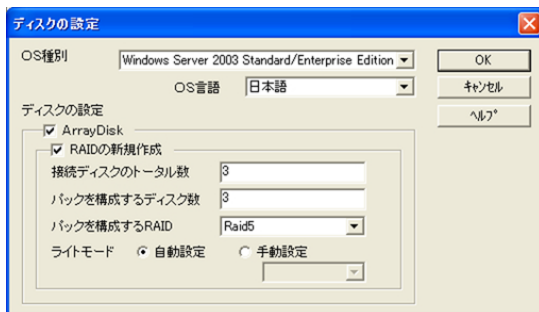


4. [ExpressPicnic]をクリックする。
ExpressPicnicウィンドウが表示されます。
5. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。
[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



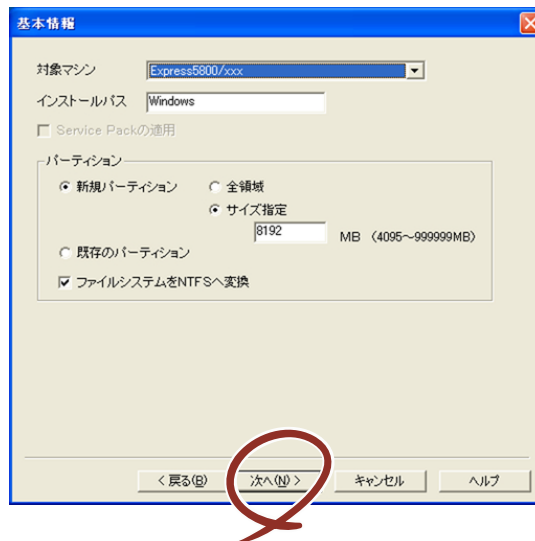
6. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル指定] ダイアログボックスが表示されます。

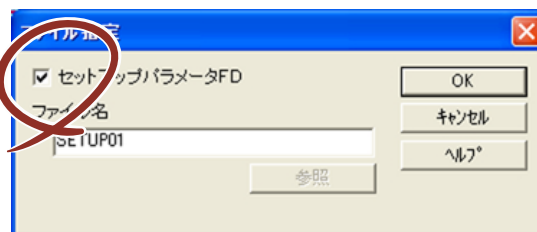


[キャンセル] をクリックすると設定した内容が消えてしまいます。



ユーザー名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語で入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力直すことができます。

8. [セットアップパラメータFD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。



9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル（セットアップパラメータFD）を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの「情報ファイルの修正」をクリックしてください。詳しくはヘルプを参照してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。

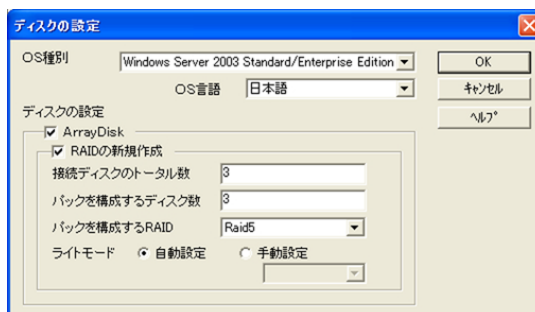
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（231ページ参照）。
2. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。

[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

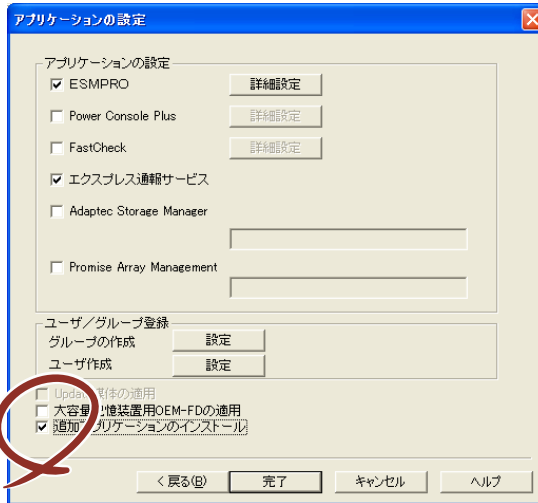


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。



[キャンセル] をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定] が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール] にチェックを入れる。

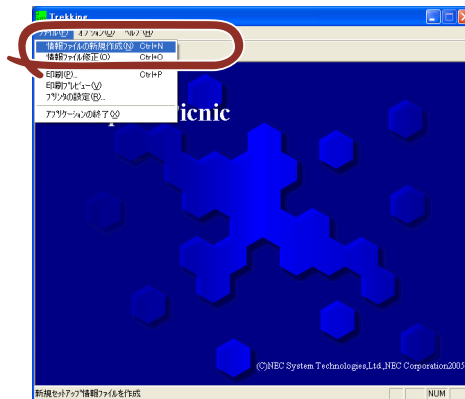


6. [ファイル指定] ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータ FD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（231ページ参照）。
2. [ファイル] メニューの [情報ファイルの新規作成] をクリックする。
[ディスクの設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK] をクリックする。

[基本情報] ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

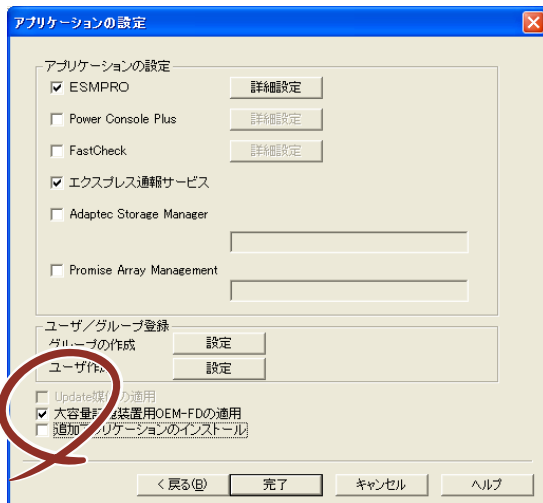


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ] をクリックする。



[キャンセル] をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定] が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用] にチェックを入れる。



6. [ファイル指定] ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD] チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名] ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK] をクリックする。

稼動機からの情報採取

ExpressPicnicが起動しているマシン（Express5800シリーズ）のセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。

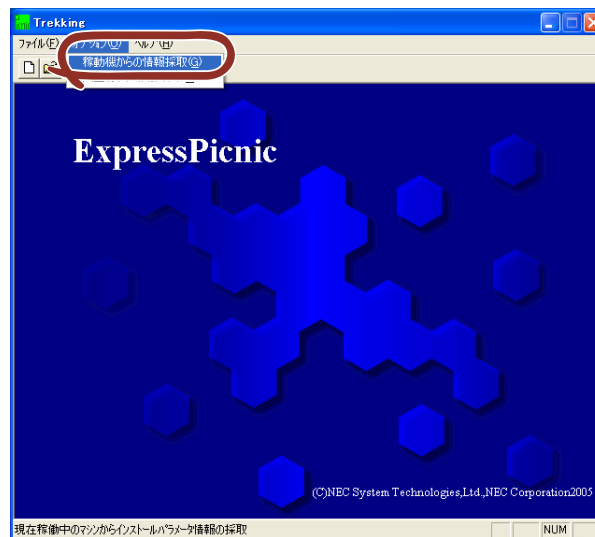


チェック

- ユーザ/グループ情報は採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。
- Windows 2000のみサポートしています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（231ページ参照）。
2. [オプション] メニューの [稼動機からの情報採取] をクリックする。

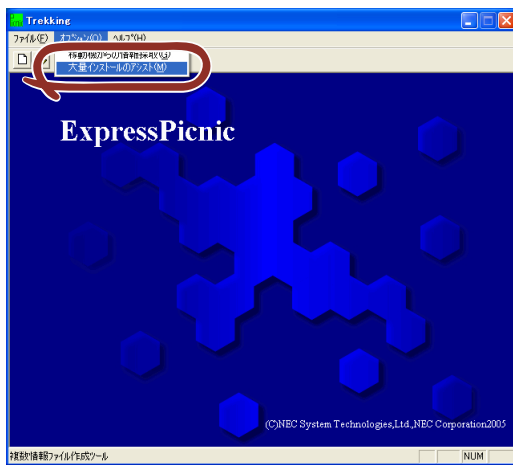
採取後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、採取したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。



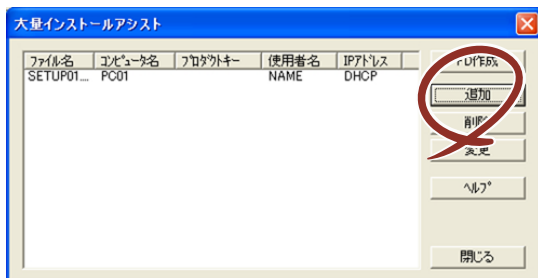
大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

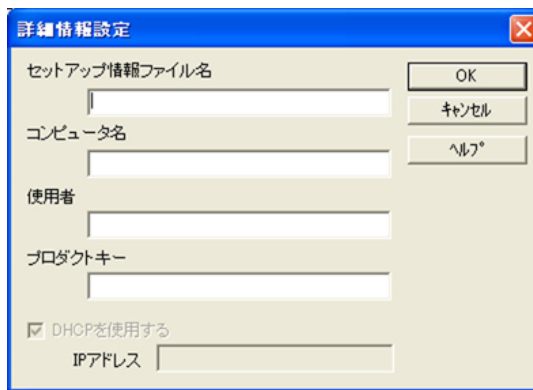
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (231ページ参照)。
2. [オプション] メニューの [大量インストールのアシスト] をクリックする。



3. [ファイルを開く] 画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
4. [追加] をクリックする。



5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。



詳細情報設定

セットアップ情報ファイル名

コンピュータ名

使用者

プロダクトキー

DHCPを使用する

IPアドレス

6. [OK] をクリックする。
リストに追加した情報が表示されます。
7. ファイル名を選択し、[FD作成] をクリックする。
選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版) インストールガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから「ソフトウェアのセットアップ」－「ESMPRO」－「ESMPRO/ServerAgent」の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



重要 アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。



ハードウェアの仕様により、ESMPRO による本体監視が開始されるまでにシステムの起動から約5分程度の時間がかかります。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent (Windows版) の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

Power Console Plus (サーバ)

Power Console PlusはLSI-Logic製ディスクアレイコントローラシステムを構築しているWindowsサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus (サーバ) の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus (管理PC) をインストールしてください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus (管理PC) をインストールしてください。

手動インストール (新規インストール)

手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plusユーザズガイド」を参照してください。

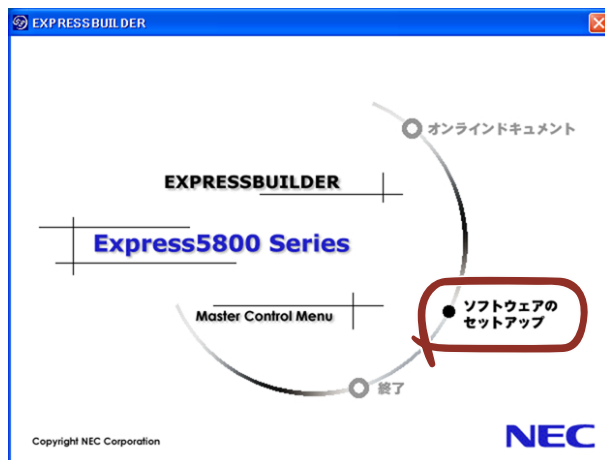
Power Console Plus (サーバ) をインストールする前に

Power Console Plus (サーバ) をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- LSI-Logic製のディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- LSI-Logic製のディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- EXPRESSBUILDERを使用したシステムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus (サーバ) のインストール手順

Power Console Plus (サーバ) のインストールは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。WindowsではEXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから [ソフトウェアのセットアップ] - [ESMPRO] - [関連ユーティリティメニューへ] - [Power Console Plus] の順にクリックします。



ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ+管理サーバ」をチェックし、[次へ] をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus (管理PC) をインストールしてください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus (サーバ) の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCおよび管理サーバのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **REGSERV.DATの設定**

ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **パスワードファイルのアクセス権設定**

「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」(c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです) をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

Promise Array Management

Promise Array Management(以下PAMと略記します)は本体に接続されたPromise社製のシリアルATAインタフェースのRAIDシステムを管理するためのユーティリティです。PAMはローカルのコンピュータ上のRAIDシステムについて、アレイの作成、リビルドや監視などを行うことができます。

PAMのインストールおよび操作方法については、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。



インストール中およびシステム再起動時などに以下の警告メッセージがポップアップで表示されます。

[Array scheduled synchronization has not been set up.]

これは、定期的なアレイの整合性チェック (Array Synchronization) が設定されていないことを警告するメッセージです。このメッセージが表示されても、インストール処理は正常に終了しています。

定期的なアレイの整合性チェックは、Promise Array Management (PAM) のArray Synchronization Schedule機能で設定してください。

アレイの整合性チェックは予防保守として非常に効果があるため、定期的に行っていただくことを強く推奨します。

Array Synchronization機能およびSchedule機能の詳細については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」を参照してください。

また、定期的な整合性チェックが設定されていない場合、システムイベントログに以下の警告メッセージが登録されます。この警告メッセージも定期的な整合性チェックが設定されていないことを示すものです。

[No Array Scheduled Synchronization
Array scheduled synchronization has not been set up.]

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPAMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他に通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」の付録を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

PAMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Promise Array Management」を選択してください。

この他に、通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」CDROM内のオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」の付録を参照し、設定を行ってください。

手動インストール(新規インストール)

手動でPAMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」を参照してください。

Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition

Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition (以下ASMBEと略記します)は装置に標準装備されたSATAインタフェースを利用したディスクアレイシステム(SATA HostRAID™)の監視・管理を行うWebベースのアプリケーションです。ASMを使用することで、システム運用中のSATA HostRAID™の保守やイベント監視による通報を行うことができます。

ASMBEのインストールおよび操作方法については、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。



アレイ保守操作以外はASMBEのブラウザ表示を終了させておいてください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にASMBEがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他に管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」の付録を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

ASMBEは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Adaptec Storage Manager」を選択してください。

この他に、管理PC側のInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」の付録を参照し、設定してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でASMBEをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス（DMITool）を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス（PC通報連携機能）を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっておりません。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お問い合わせの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル] の [ESMPRO/ServerAgent] を選択する。
2. [全般] タブの [通報の設定] をクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール] メニューの [エクスプレス通報サービス]、[サーバ] を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ] が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール（新規インストール）

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ
18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量
30.0MB以上
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
 - 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
 - マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
- * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。

(例)監視対象となるサーバにインストールされている ESMPRO/ServerAgent のバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**
本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのための契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- **通報開局FD**
契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、本体に接続されたテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、本体にテープドライブが接続されている場合にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合があります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。サービスの設定は [コントロールパネル] の [サービス] をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名
TapeAlertChecker
- スタートアップの種類
自動
- ログオン
システムアカウント
[デスクトップとの対話をサービスに許可] にチェック

サービスに [TapeAlertChecker] がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール（新規インストール）」を参照してインストールしてください。

手動インストール（新規インストール）

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMのドライブレター :¥TpTool¥SG_TPn.pdf (n:バージョンによって数字が異なる)

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置
Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ
500KB以上
- ハードディスクドライブの空き容量
2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
 - － Microsoft Windows NT 4.0日本語版（サービスパック5以降）
 - － Microsoft Windows 2000 日本語版

Microsoft Windows Server 2003、およびMicrosoft Windows XPはサポートしていません。
- アプリケーション
 - － ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)（全エディション）
 - － ARCserve J6.5 for Windows NT（全エディション、Patch07が必要）
 - － ARCserveIT J6.6.1 for Windows NT（全エディション）
 - － ARCserve 2000（SP2）（全エディション）
 - － BackupExec for Windows NT Ver.7.3
 - － BackupExec for Windows NT Ver.8.5
 - － NTBackup（Windows NT標準装備のバックアップツール）
 - － #BKUP

その他のバージョン、またはアプリケーションについては弊社までお問い合わせください。

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです。

- 内蔵/外付AIT N8151-28/-34/-34A/-41/-41A/-44/-46、N8551-19/-28/-34、N8560-16
- 内蔵/外付AIT集合型 N8151-29/-36、N8551-20/-29/-36、N8560-17
- 内蔵/外付DAT（DDS3） N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、N8560-12/-12AC
- 内蔵/外付DAT集合型（DDS3） N8151-13AC、N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC
- 内蔵TRAVAN N8551-21
- 外付TRAVAN集合型 N8560-19

- 内蔵/外付DAT (DDS4) N8151-26/-43/-45、N8551-26、N8560-22
- 内蔵/外付DAT集合型 (DDS4) N8151-27、N8551-27、N8560-23
- 内蔵SLTO N8151-38
- 内蔵LTO N8151-37/-40
- 外付LTO N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある「NEC 8番街 (<http://nec8.com/>)」の「サポート情報」－「商品情報・消耗品 (Express5800・テクニカルガイド)」にある「バックアップ装置」を確認してください。

インストール手順

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの次のディレクトリにある「setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMのドライブレター :¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です（デフォルトの設定でインストールした場合）。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ハードウェアの仕様により、ESMPRO による本体監視が開始されるまでにシステムの起動から約5分程度の時間がかかります。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。

Power Console Plus (管理PC)

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザズガイド」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus (管理PC) を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザズガイド」を参照ください。

Power Console Plus (管理PC) をインストールする前に

Power Console Plus (管理PC) をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- EXPRESSBUILDERを使ったシステムのアップデートが終了していること (Express5800シリーズにインストールする場合)
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、サービスパック6aが適用されていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus (管理PC) のインストール手順

Power Console Plus (管理PC) のインストールは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから [ソフトウェアのセットアップ] - [ESMPRO] - [関連ユーティリティメニュー] - [Power Console Plus] の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC+管理サーバ」をチェックし、[次へ] をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus (管理PC) の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**
管理サーバとすべてのサーバ/管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。
- **REGSERV.DATの設定**
管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。